

関 係 各 位

愛知県農業総合試験場長
(公 印 省 略)

病害虫発生予察情報について (送付)

このことについて、下記のとおり発表しましたので、参考にしてください。

記

令和 6 年度病害虫発生予報第 5 号 (8 月)

令和 6 年度病害虫発生予察注意報第 6 号

担 当 環境基盤研究部病害虫防除室

電 話 0561-41-9513

ファックス 0561-63-7820

令和 6 年度病害虫発生予報第 5 号 (8 月)

令和 6 年 8 月 2 日

愛 知 県

普通作物

・ 予報内容

作物名	病害虫名	発生量 (発生時期)	主な 発生地域	予報の根拠	予報へ の影響
イネ	いもち病 (穂いもち)	平年並	県全域	7月下旬の葉いもちの発生量は 平年並	±
	紋枯病	やや少ない	県全域	7月下旬の発生量はやや少ない 8月の降水量はほぼ平年並	- ±
	白葉枯病	平年並	県全域	7月下旬の発生量は平年並	±
	もみ枯細菌病	平年並	県全域	7月下旬の発生量は平年並 8月の降水量はほぼ平年並	± ±
	ニカメイガ	やや多い	県全域	7月下旬の発生量は平年並 予察灯における越冬世代成虫の 誘殺数が多い	± +
	セジロウンカ	やや多い	県全域	7月下旬の発生量は平年並 予察灯における誘殺数はやや多い	± +
	トビイロウンカ	やや多い	県全域	7月下旬の発生量は平年並 予察灯における誘殺数は平年並 予察灯における初誘殺が早い	± ± +

作物名	病害虫名	発生量 (発生時期)	主な 発生地域	予報の根拠	予報への影響
イネ	斑点米 カメムシ類	やや多い	県全域	7月下旬の本田での発生量はやや多い	+
				7月下旬の水田畦畔での発生量はカスミカメ類でやや少なく、それ以外はやや多い	-~+
				予察灯における誘殺数は平年並	±
	ツマグロヨコバイ	平年並	県全域	7月下旬の発生量は平年並 予察灯における誘殺数は平年並	± ±
	イチモンジセセリ (イネツトムシ)	少ない	県全域	7月下旬の被害株率は少ない	-
フタオビコヤガ (イネアオムシ)	平年並	県全域	7月下旬の発生量は平年並 予察灯における誘殺数は平年並	± ±	
コブノメイガ	平年並	県全域	7月下旬の発生量は平年並	±	
ダイズ	ハスモンヨトウ	やや多い	県全域	フェロモントラップにおける誘殺数は平年並 8月の気温は高い	± +
	オオタバコガ	やや多い	県全域	フェロモントラップにおける誘殺数は平年並 8月の気温は高い	± +

・防除対策

[イネ・ニカメイガ]

弥富市に設置した予察灯では、7月下旬に誘殺数が増加しています。今後の発生状況に注意してください。

防除対策は7月10日発表の「ニカメイガ情報第1号」を参考にしてください。

[イネ・セジロウンカ、トビイロウンカ]

セジロウンカについて、7月下旬の巡回調査では発生量は平年並みでしたが、一部地域の予察灯で誘殺数が多いところがあります。今後の発生状況に注意してください。

トビイロウンカについては、本日発表の「ウンカ類情報第3号（トビイロウンカ）」を参考にしてください。

[イネ・斑点米カメムシ類]

本日発表の「令和6年度病害虫発生予察注意報第6号」を参考にしてください。

[ダイズ・ハスモンヨトウ]

本日発表の「ハスモンヨトウ情報第1号」を参考にしてください。

[ダイズ・オオタバコガ]

本日発表の「オオタバコガ情報第3号」を参考にしてください。

・留意事項

ダイズについて、西尾市に設置したトラップにおけるシロイチモジヨトウの誘殺数はやや多い状況です。本日発表の「シロイチモジヨトウ情報第1号」を参考にしてください。

果樹

・予報内容

作物名	病害虫名	発生量 (発生時期)	主な 発生地域	予報の根拠	予報への影響
ウンシュウミカン	黒点病	平年並	県全域	5月の枯枝の胞子形成量は平年並 8月の降水量はほぼ平年並	± ±
	ミカンハダニ	やや多い	県全域	7月下旬の発生量はやや多い	+
	チャノキイロアザミウマ	平年並	県全域	7月下旬のイヌマキにおける発生量は平年並 粘着トラップにおける誘殺数は平年並	± ±
ナシ	うどんこ病	平年並	県全域	7月下旬の発生量は平年並	±
	ハダニ類	多い	県全域	7月下旬の発生量は多い 8月の気温は高い	+ +
	ナシヒメシシクイ	平年並	県全域	フェロモントラップにおける誘殺数は平年並	±
モモ	モモハモグリガ	平年並	県全域	フェロモントラップにおける誘殺数は平年並 7月下旬の被害葉率は平年並	± ±
カキ	うどんこ病	やや少ない	県全域	7月下旬の発生量はやや少ない	-
	カキノヘタムシガ	平年並	県全域	第1世代幼虫による被害果率は平年並	±
	コナカイガラムシ類	少ない	県全域	7月下旬の発生量は少ない	-
果樹共通	カメムシ類	やや多い (早い)	県全域	7月下旬のヒノキ林における幼虫の生息頭数はやや多い 7月下旬のヒノキ球果量は平年並からやや多い	+ ±～+

・防除対策

[ウンシュウミカン・ミカンハダニ]

カネマイトフロアブルなどで防除しましょう。

[ナシ・ハダニ類]

多発しているほ場が確認されています。コロマイト乳剤などで防除しましょう。

[果樹共通・カメムシ類]

本日発表の「果樹カメムシ類情報第3号」を参考にしてください。

・留意事項

カキノヘタムシガが多発しているほ場を確認しています。次の防除適期は第一世代成虫発蛾最盛期（7月下旬～8月上旬）の3～10日後とされています。注意してほ場を観察し、防除しましょう。

チャノキイロアザミウマの防除適期は、成虫発生ピークの時期です。下表の成虫発生ピークの予測日を参考に防除しましょう。

表 有効積算温度を利用したチャノキイロアザミウマ成虫発生ピークの予測日

	愛西	南知多	名古屋	大府	豊田	岡崎	蒲郡	豊橋	新城	伊良湖	稲武
第4世代	7/21	7/23	7/17	7/19	7/21	7/21	7/20	7/19	7/24	7/19	第3世代 7/26
第5世代	8/8	8/8	8/4	8/5	8/8	8/8	8/6	8/5	8/11	8/5	第4世代 8/15
(前年)	8/7	8/7	8/2	8/3	8/8	8/8	8/6	8/6	8/11	8/5	(前年) 8/18
前年差	1日遅	1日遅	2日遅	2日遅	±0	±0	±0	1日早	±0	±0	前年差 3日早
第6世代	8/25	8/26	8/20	8/21	8/25	8/25	8/23	8/22	8/29	8/22	第5世代 9/7

各地のアメダス平均気温から予測（第4世代から第6世代まで）。8月1日までは実測値を、それ以降は平年値を用いて計算。

※稲武については、第3世代から第5世代までの予測。前年ピーク日と前年差は第4世代。

野菜

・予報内容

作物名	病害虫名	発生量 (発生時期)	主な 発生地域	予報の根拠	予報への影響
キャベツ	オオタバコガ	やや多い	県全域	フェロモントラップにおける誘殺数はやや多い 8月の気温は高い	+
	シロイチモジヨトウ	やや多い	県全域	フェロモントラップにおける誘殺数はやや多い 8月の気温は高い	+
イチゴ	炭疽病	やや多い	県全域	7月下旬の発生量は平年並 8月の気温は高い	± +
野菜共通	ハスモンヨトウ	やや多い	県全域	フェロモントラップにおける誘殺数はやや多い 8月の気温は高い	+

・防除対策

[キャベツ・オオタバコガ]

本日発表の「オオタバコガ情報第3号」を参考にしてください。

[キャベツ・シロイチモジヨトウ]

本日発表の「シロイチモジヨトウ情報第1号」を参考にしてください。

[イチゴ・炭疽病]

育苗期間はベルコートフロアブルなどを用いて予防的防除を行いましょう。発病株はすみやかに抜き取り、ほ場外に持ち出し適切に処分しましょう。発病株の周辺にある株に病徴が無い場合でも同様に抜き取り処分しましょう。なお、親株で発生があった場合は、その親株から発生しているランナーと子株も同様に処分しましょう。

〔野菜共通・ハスモンヨトウ〕

本日発表の「ハスモンヨトウ情報第1号」を参考にしてください。

・留意事項

キャベツの**コナガ**、**ハイマダラノメイガ**は、今後発生に好適な気象条件が見込まれるため、注意が必要です。育苗期には防虫ネットなどで覆い、成虫の侵入を防ぐとともに、薬剤防除を徹底しましょう。

トマトでは、**コナジラミ類**の発生が増加する時期です。タバココナジラミはトマト黄化葉巻病（病原ウイルス：TYLCV）、コナジラミ類はトマト黄化病（病原ウイルス：ToCV）を媒介します。これらウイルス病の感染を防ぐため、育苗時、定植時にはコナジラミ類が寄生していないか確かめるとともに、コナジラミ類に効果のある薬剤を施用しましょう。また、侵入防止対策として、施設開口部に防虫ネット（目合 0.4mm 以下）を設置しましょう。

トマト**キバガ**の県内農作物への被害は確認されていませんが、複数地点のフェロモントラップで継続的に誘殺されています。ほ場での発生が疑われる場合は病害虫防除室またはお近くの農業改良普及課へお知らせください。コナジラミ類防除と併せて、適用のある薬剤を施用するとともに、侵入防止に努めましょう。疑わしい被害葉及び果実は、ほ場やハウス周辺に放置せず、速やかに土中深くに埋却するか、ビニール袋で一定期間密閉し寄生した成幼虫を全て死滅させたいので、適切に処分しましょう。生態や防除対策などの詳細は、7月3日発表の「トマトキバガ情報第2号」を参考にしてください。

イチゴの育苗ほでの**ハダニ類**の発生はやや多いですが、ほ場による差が大きい状況です。今後、発生に好適な気象条件が見込まれるため、注意が必要です。育苗ほでは、気門封鎖型農薬などを組み合わせて防除しましょう。定植直前は、炭酸ガス処理（二酸化炭素くん蒸剤）やサフオイル乳剤などによる苗浸漬処理を行い、本ほにハダニ類を持ち込まないよう防除を徹底しましょう。苗浸漬処理を行う場合は、薬害を生じさせないために、高温時の使用は避け、薬液は処理直前に十分に攪拌させてから使用しましょう。また、処理後の苗をハダニ類の発生した育苗ほに戻すと再度ハダニ類が寄生してしまうので、速やかに定植しましょう。

花き

・予報内容

作物名	病害虫名	発生量 (発生時期)	主な 発生地域	予報の根拠	予報への影響
キク (露地)	オオタバコガ	やや多い	県全域	フェロモントラップにおける誘殺数はやや多い 8月の気温は高い	+ +
	ハダニ類	やや多い	県全域	7月下旬の発生量はやや多い 8月の気温は高い	+ +

・防除対策

〔キク（露地）・オオタバコガ〕

本日発表の「オオタバコガ情報第3号」を参考にしてください。

〔キク（露地）・ハダニ類〕

コロマイト水和剤やダニコングフロアブルなどで防除しましょう。なお、薬剤感受性の低下を防ぐために、同一系統の農薬を連用せず、ローテーション防除を行いましょう。

予察灯、フェロモントラップなどの各種調査データは、ホームページ「あいち病害虫情報」（アドレス：

<https://www.pref.aichi.jp/site/byogaichu/investigation.html>）を参照してください。

東海地方 1か月予報（名古屋地方気象台8月1日発表）

〈予想される向こう1か月の天候〉

平年に比べ晴れの日が多いでしょう。

向こう1か月の平均気温は、高い確率80%です。

週別の気温は、1週目は高い確率80%です。2週目は、高い確率80%です。

3～4週目は、高い確率70%です。

〈向こう1か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率〉

〔気 温〕 低 い：10% 平年並：10% 高 い：80%

〔降 水 量〕 少 ない：30% 平年並：30% 多 い：40%

〔日照時間〕 少 ない：30% 平年並：30% 多 い：40%